

光葉ワーキングクラブメールマガジン

<2014年5月号>

86号 2014.05.01 配信

陽射しが眩しく、青葉が目に見える、過ごしやすい日になってきました。

光葉ワーキングクラブでは、3月に合同ワーキングネットワークが開催され、日本の良さについて改めて知ることができた、女性として後世に対してすべきことを気付く機会を持てたことに感謝します等の感想が寄せられております。今後も、メールマガジンを通して、様々な情報を発信していきますので、皆様、是非とも参加して下さい。

■ 学園だより

- 5月1日(木) 創立記念式
- 東明学林は、つつじ鑑賞のため5月10日(土)・11日(日)10:00~15:00の間、構内を開放します。 問合せ先：昭和女子大学 東明学林 TEL 0465-83-5101

■ 同窓会だより

- 4月19日(土) 2014年度幹事会の報告
新幹事7名を含め約150名の参加。来賓の理事長・学長の坂東眞理子先生と学事顧問の平尾先生から学園の近況のお話を頂きました。第2部では横井会長がパワーポイントを使って「光葉同窓会 この一年」を報告致しました。
幹事からの意見交換も活発に行われました。
- 2014年度第41回光葉同窓会総会 5月18日(日) 10:00~13:00 於：グリーンホール
第1部 総会 10:00~11:00
第2部 講演会 11:00~11:50
講演者：平原史樹氏
横浜市立大学附属病院 病院長(初等部6回生 1964年卒)
演題：『遺伝子が診断され、明らかになる時代のなかで』
一将来自分が乳がんになる？胎児の姿が生まれる前に！
はたして私たちにはよいことなのでしょうか？—
第3部 懇親会 12:10~13:00 恩師を囲んで昼食会(学園本部館3階大会議室)
*総会出席者は、13時30分から開催されますホームカミング(旧体育館)に参加することができます(終了16時予定)。多数のご参加お待ちしております。
- 2014年9月1日~8日に欧州ツアーが開催されます。
坂東眞理子理事長・学長と共に、人見楷子名誉理事長訪ねて、2014年9月1日~8日に初秋の中欧を旅します。音楽と芸術の都ウイーンやザルツブルグの街を楽しみます。いずれも詳細は、同窓会ホームページをご参照下さい。

●参加者数54名で開催された合同ワーキングネットワーク（3月30日開催）報告

第1部 「女性と仕事～女性はもっと活躍できる～」13:00～14:10

前原 金一氏（昭和女子大学前副理事長、経済同友会副代表幹事・専務理事）

人見楷子理事長とは今から50年前シベリア経由でヨーロッパに行った時のご縁で、その後35年ぶりに再会し、学外理事として招かれ6年間ご一緒することになりました。経済同友会は、昭和21年に日本経済の堅実な再生のため新進気鋭の中堅企業人有志83名により発足し、今年が設立70周年です。経営者が個人の資格で参加する会で、現在は全国約14,000名の同志が活動しています。

東日本大震災の時、復興のための応援をしなければならぬと考え、三菱地所の社長と委員会を作りどのようなサポートしたらよいかを考え、現地で活躍する若い人を長期的にサポートするため寄付を募り、被災した実業高校などに船や旋盤といった現物を持って行き復興に寄与しています。現在は6回目に入りますが、継続的な活動をしています。

また、大学生が3年次から就職活動をするため、その間勉強ができない、そういうことを許している経済界もけしからぬと思ひ、以前と同じ8月からにしようと提言をし、新卒採用に対する意見書を政治家などに配り働きかけた結果、来年からそのように改善されることになりました。

留学生支援協会の理事もしていますが、アメリカに日本から留学生が来なくなったといわれていますが、アメリカからの留学こそ1.5%に過ぎないのもっと日本に留学に来よう提言し重点国の中にいれました。昨年一年かけ国別に基本政策をほぼ決め、ネットワークの作成にも予算をとることになりました。

学生支援機構の奨学金の見直しについては、貸与型が増え、給付型がなくなり返せない人が増えたため、学費免除の予算を増やし、給付型も増やすことになりました。就職状況が悪いので返せない人が多く、延滞利息の10%が払えないので、5%に減らすようにしました。就職状況が改善すれば返せる人が増えるでしょう。

重職心得箇条

幕末の頃、佐藤一斎が美濃の岩村藩家老に請われて作った憲法で、江戸時代のベストセラ一、各藩から使者を出して学んだといわれています。

日本には長寿企業、つまり1000年以上続いている会社が沢山あります。最古の会社は奈良にある寺社建築の金剛組で1,400年以上です。200年以上経っている会社ですと2500～3000社、100年以上は10万社以上あります。これは世界に例がありません。

日本は資源小国と言われていますが、実は海を含めた領海でいうと世界3位、海底資源の掘削技術が発展すれば屈指の資源大国になると思います。その国の水資源の大きさで、養える人口が決まりますが日本は水が豊富で、森林資源も豊かです。世界の中で、平和と発展に貢献している国では1番です。世界平和に貢献している国はドイツと日本と世界の人々は評価しています。

経済同友会では今後女性経営者、役員を増やすべく訓練を行っています。女性を抜擢するにあたり、サポートする人材がいるかいないかで大きく違うので、そういった人が社内にはない場合は同友会でサポートするようにしています。

＝参加者からの質問＝

Q、女性の重職の心得があるとしたらどんなものでしょうか。

A、良いメンターが存在することが重要だと思います。それも社内外でみつけること。悩んだときに相談できるだけで違うので、そういった人を見出すことが重要だと思います。

第2部 分科会 「前原氏を囲んで 意見交換会」 14:20～15:30

Q、国を挙げて女性管理職30%を達成するのにあと6年ということですが、各社の賃上げは現状10%代ですが実際に実行可能でしょうか。

A、実際に達成可能と考えています。日本は流れができると一気に実現するので、メンター

の役割を同友会がするという事で支援しているので、女性の役員が増えていくと思っています。教育関係は同友会の提言が強く生きていて、迅速に対応する体制を整えています。

Q、女性の職場でのマナーで気になること、必要なことは何でしょうか。

A、それは坂東さんの女性の品格で。あまり男女で、意識したことはありません。男性はお酒を飲んで情報交換する機会があります。オフィシャルだけでなく飲み会などオフのコミュニケーションが組織を動かす上で重要になるので、そのあたりの工夫が必要ではと考えています。

Q、30%は大丈夫というご意見でしたが、我々も逆差別「女性だから有利」と言われないうに女性はキャリアを積むため働き続けたいとならないのですが、それには男性も意識を変える必要があると感じますが、なにか男性にアドバイスは。

A、「重職」の中にもありますが、特に女性は、任せ方が下手な人が多い傾向があるので、部下に任せる。注意深く部下に任せ何かあったらサポートするこれを心得るとうまくいきます。

Q、男性に対して女性の活用法は。

A、メンターを探し、やっていく。ただし、上司で無能な者が来た時が問題。嫉妬する。そうなるストレスがかかるので、体調を崩すことがあります。私もむきになって働いているうちに結核になりましたが、そういう時に、もっと上にいる人でメンターがいれば耐えられます。

第2部分科会 小学校教職員ネットワーク 14:40～15:30

春からの教員生活スタートに向けて～激励会～

○挨拶（新教員予定者：4名）

・期待と不安で一杯。どんな準備をしたらよいか、どんな準備をしたらよいか、来年の正規雇用を目指して頑張りたい、特別学級という事で正直不安を感じている。などとの感想が出ました。

【諸先輩教員の方々からアドバイス】

・教師になると、挨拶する機会が相当多くなり上手になる。とにかく楽しむ。子どもとまずは遊ぶ。子どもと同じ空気を吸って、子どもから学ぶ。人から可愛がられる存在になる。先生は縦社会で個の意見は通りにくい。逆らわない。お金を頂く立場であることをわきまえる。健康第一（毎日夜8時9時までの仕事は当たり前である）。それぞれの学校が抱える環境、状況を受け止める。年間の教育課程、指導計画等を見て全体を把握する。分からないことは直ぐ確認する。素敵な先輩、真似したい先輩を見つける。仕事漬けにならない。同窓会ネットワークをどんどん活用して欲しい。毎日の子ども達との生活に学歴・経験・勉強は関係ない。まずは環境に慣れる事が大切。毎日忙しく自分の時間を作るのも大変だが日曜日は特に上手に活用すべき。色々難しい子どももいるが、親にとって『子供は宝物』『愛の塊』と思えば子ども達と接すると気持ちが整理しやすくなる。悩みを相談できる人を作る。ちょっと頑張っただけで気張らずに。そして、最後に現場の声をどんどん同窓会ネットワークに寄せて欲しい、という意見が出ました。

■広げよう光の葉

西澤 法子さん

1992年 文学部日本文学科卒業

「想いをカタチに」

現在私は、友人とグループを立ち上げ「人と人がつながる場」をつくり地域で活動しています。「一步踏み出すきっかけをつかんでもらいたい」そんな思いから、お菓子作りをしながら楽しく交流できる場をつくったり、区と共催でウォーキングを通じて色々な世代をつないだり、舞台上で発表する場をつくったりしています。ボランティアとしての活動になりますが、自分たちが「やってみたい！」と思ったことを実現していくことに、大きなやりがいを感じ、日々奔走しております。

活動の原点は、4年ほど前に参加した生涯学習での運営委員の体験にあります。自分たちが一から企画した講座内で、受講している皆さんがだんだん打ち解けられ、イキイキと輝いていかれる姿に感動しました。人をつなぐ楽しさ、人に喜んでいただくことの嬉しさを知り、今後もこういった場を創っていきたい！と心から感じた瞬間でした。その時のワクワクした気持ちは、今でも忘れることができません。その後、3.11を経験し、地域でのつながりの大切さを実感したことも、活動を続けている大きな原動力となっています。

学生時代は、将来自分がこのような活動をするようになるとは夢にも思っていませんでした。いつも自信がもてずに、「私は何が好きで、一体何ができるんだろう？」と模索し続けた大学4年間だったように思います。悩んだ結果、卒業後は子供の頃から大好きだったお菓子作りを極めたいと、思いきって職人の道を志しましたが、残念ながら挫折してしまいました。その後は、派遣社員として電話のオペレーターをしながら、ホノルルマラソンに挑戦したり、茶道を習ったり、話し方教室に通ったりと、結婚後も「ピンとくる何か」を探し続けてきました。現在40代半ばになりますが、ようやく少し光が見えてきたところです。

本当にやりたいことが見つかるタイミングは人それぞれで、実際に体験をしてみないと分からないものなのだと思います。私の場合、だいぶ時間がかかりましたが、これまでの経験や人との出逢い、すべてのことに意味があったんだなあと感じています。昭和で学ばせていただいたこと、先生方、友人達との出逢いはかけがえのない財産となっています。恵まれた環境にあることに感謝の気持ちを忘れないでいたいと思います。そして、今を大切にしながら、これからも一歩ずつ進んでいきたいと思っています。

End